

## 市販の虫さされ・かゆみ止めの薬いろいろ

夏場は、虫に刺されることがよくあります。身近なところでは蚊やダニ。  
かゆくてどうしようもない時に頼りになるのが、市販のぬり薬です。  
一口にぬり薬と言っても色々です。

## ぬり薬の使用感

軟膏はベタベタ感がありますが、皮膚に膜を作って保護する作用があります。クリームはサラッとしていますが、汗などで流れやすいのが難点です。液体は塗ってすぐ乾くので便利ですが、その分効いている時間が短いのが難点です。その他ゲル、パッチ等色々ありますが、まずは患部の使用感で選んでいただくのが良いでしょう。



## かゆみを止める成分にも、色々あります。

抗ヒスタミン成分（ジフェンヒドラミン、クロルフェニラミン等）・副腎皮質ステロイド成分（デキサメタゾン、プレドニゾロン、ヒドロコルチゾン等）・局所麻酔成分（ジブカイン、リドカイン、アミノ安息香酸エチル等）、その他クロタミトン、ウフェナマート、グリチルリチン等が、早く良く効くように工夫してブレンドされています。商品を選ぶのに迷う時は、ぜひ店頭の薬剤師や登録販売者にアドバイスをもらってください。

ステロイド！  
副作用は大丈夫？



使用前に説明書を  
よく読みましょう！



成分の中で「副腎皮質ステロイド」は、副作用が怖いと思われている方もいるのではないのでしょうか？しかしながら、市販のぬり薬については、特別に怖がる必要はありません。特にアンテドラッグという成分（プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル等）は、塗った部位にはちゃんと効果があるけれども、体に吸収されると代謝されて効果を失うしくみを持っており、副作用を少なくする工夫がされています。

ただ、どんな薬にも副作用はつきものなので、薬に付いている説明文を使用前によく読んでください。注意すべきことがわかりやすく書いてあります。例えば、市販のぬり薬では「長期連用しないでください」と書いてあります。この場合の長期とは2~4週間ぐらいをいいます。市販のぬり薬を使っても症状が良くならない、または悪化している場合は、皮膚科の受診をお勧めします。その際、使用していた薬の説明文を持って行きましょう。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索